

なごや環境大学特別公開講座

第16回 持続可能な明日をめざすシンポジウム
～いのちつながる 街づくり担い手づくり～

SDGs 〈わたしにみんなにできること〉 実践報告会

報告書

令和3年12月1日(水) 13:00～16:00(12:30 開場)

会場:名古屋市公館 1階レセプションホール



共催 なごや環境大学 / 名古屋市 / 名古屋商工会議所 / 一般社団法人名古屋建設業協会 / 東日本建設業保証株式会社

後援 国土交通省中部地方整備局 / 環境省中部地方環境事務所 / 愛知県 / 環境パートナーシップ・CLUB / 株式会社日刊建設工業新聞社名古屋支社 / 株式会社日刊建設通信新聞社中部支社 / 株式会社建通新聞社中部支社

企画責任団体 一般社団法人愛知県建設業協会

第16回 持続可能な明日をめざすシンポジウム
 ~いのちつながる 街づくり担い手づくり~
 <わたしに みんなに できること>SDGs実践報告会

プログラム

※本文は主催者側で発表主旨をまとめております。

13時00分～13時05分 **主催者挨拶**
 名古屋市環境局 環境企画部長 **市橋 和宜**

13時05分～13時45分 **基調講演**
 中京大学経済学部客員教授 **内田 俊宏**
 『SDGsは、なぜ必要なのか?』

13時50分～14時30分 **行政からの実践報告**
 愛知県建設局河川課改修グループ **早野 将康**
 『SDGsにおける愛知県の流域治水対策』

「なごや環境大学」実行委員会事務局 **鵜飼 真助**
 名古屋市環境企画課 主査
 『なごや環境大学のSDGsに関する取り組み』

14時30分～14時40分 **休憩**

14時40分～14時50分 **「ラブなご」特別版**
 愛建協提供CBCラジオコーナー番組

14時55分～15時25分 **学校・企業からの実践報告**
 名古屋市立工芸高等学校 **都市システム科**
 『災害時に、誰一人取り残さない社会を目指して
 ~Evacuationに主眼を置いた防災に関する取り組みの紹介~』

会員企業 **菱田 直輝**
 太啓建設株式会社 総務部アグリ事業課
 『観光農園事業の活動について』

15時25分～15時45分 **未来の人たちからの報告**
 富士文化幼稚園児の活動発表・合唱

15時45分～15時55分
 コメンテーターによるまとめ

15時55分～16時00分
 結びの言葉



設営の様子



受付設置



配布資料



名古屋市公館 1階
 Civic Reception House
レセプションホール



ごあいさつ

名古屋市環境局 環境企画部長

市橋 和宜



皆さん、本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。

開演に当たって主催者を代表してひと言、ご挨拶を申し上げます。

この「持続可能な明日をめざすシンポジウム」は、今回で16回目を迎えました。当初は主に環境活動に取り組む地元建設業界からの情報発信の場でありましたが、その後は毎年、生物多様性の保全や防災・減災活動など「持続可能な社会づくり・人材づくり」をめざすためのテーマを取り上げてきました。

さらに一昨年からはそれらを包括するテーマとして「SDGs」を掲げて、市民・企業・学校・行政などの多様な取り組みを紹介する場として発展してきたことを主催者の一員として大変喜ばしく思っております。

さて、私ども名古屋市の最近の取り組みとしては、今年9月に「第4次環境基本計画」を策定しました。その中の重点取り組みの一つとして「SDGsの多面的な考え方の浸透と主体的に行動する人や事業者のネットワークの拡大」を掲げております。のちほど担当者からご紹介する「なごや環境大学」の取り組みもまた、こうした観点に基づいて実施しております。

名古屋市以外にも本会では愛知県や教育機関、建設業界と、様々な立場の皆さんからの多彩な実践報告があります。このようにSDGsの目標達成のためには特定の人だけでなく、多様な主体がそれぞれに一步一步前進していくことが大変重要です。その意味でも今日の方がこの地域のSDGsのゴールに向けての一助になることを心から願っております。

最後に、本日の催しをご後援いただいた関係各位並びに共催の皆さんにお礼を申し上げて、私の挨拶とします。



SDGsは、なぜ必要なのか？

中京大学経済学部 客員教授

内田 俊宏



主催者挨拶に続いてステージには中京大学経済学部 客員教授の内田俊宏さんが登場、「SDGsは、なぜ必要か」と題する基調講演が始まりました。マクロ経済や地域活性化などがご専門の内田先生からは、次の大きく3つのテーマのお話がありました。以下は主催者側による要約です。

1.なぜ今、SDGsなのか

今では聞き慣れた言葉となった「SDGs」について改めて簡単にまとめれば、2015年に国連で採択された2030年までに「世界中の誰一人として取り残さない持続可能な社会」の実現をめざす17の目標のこと。

これまでの考えでは環境問題は経済活動の「結果」と捉えられていましたが、SDGsにおいては経済や社会の発展の大前提として環境保全が健康・福祉など様々な課題と並んで位置付けられ、いわば「環境も豊かさも」共に達成することが求められています。

2.「誰一人取り残さず」の困難さ

今、世界各地で主に異常気象による自然災害が多発して、各国とも気候変動の要因となる温暖化の抑制が喫緊の課題となっています。その解決のための動きの一つが「脱炭素化」ですが、国や地域や企業の事情が異なるために必ずしも簡単に世界中で歩調を合わせて、というわけにはいきません。

SDGsの主要原則の中に「世界の誰一人取り残さず」とありますが、既に豊かさを手に入れた上で脱炭素化に取り組む先進国もあれば、豊かさを求めて経済活動を優先する国もあります。SDGsの掲げる「一人も取り残さず」や「豊かさも環境も」の原則に基づく持続可能な社会の実現は簡単ではありません。

3.取り組みも「一人残さず」で

とはいえ、国や企業の事情は異なっても温暖化を食い止めて持続可能な社会を実現していくことは人類共通の目標です。その達成のためには私たち一人一人の取り組みは小さいかもしれませんが、継続的な積み重ねが大きな流れを生み出していくことを信じて、「取り組みも誰一人残らず」進めていくことが大切です。

私たちは普段、自分が関わる限られた環境の中でSDGsについて考え、行動していますが、さまざまな図表や統計に基づく幅広い視野に立った内田先生のお話をうかがって、世界とつながる日本の立場や採るべき行動、そして自分自身の日常的な行動の意義について改めて考える格好の機会となりました。

内田先生、お忙しい中、ありがとうございました。



SDGsにおける愛知県の流域治水対策

愛知県建設局河川課

早野 将康



内田先生の基調講演に続いて、前半は行政からのSDGs実践報告です。最初に愛知県建設局の早野将康さんの「SDGsにおける愛知県の流域治水対策」と題するお話です。

インフラ整備とSDGsの深い関係

道路や河川の整備とSDGs、一般の皆さんにはその結びつきがよくわからないかもしれません。しかし、SDGsの17分野の9番目の目標は「産業と技術革新の基盤をつくろう」です。基盤すなわちインフラです。愛知県は製造品出荷額48兆円を誇る「産業首都」であるばかりでなく全国有数の農業県でもあります。その物流を支えるのは道路整備です。そして河川整備は人々の生命財産や産業集積地を守る役割を果たします。つまりインフラ整備はこの地域のSDGsの達成に必要な不可欠であることが分かります。

流域治水の必要性

昨今、全国各地で毎年のように発生する大規模な洪水災害については皆さんご存じのとおりです。こうした豪雨災害に対処するためには、都市部のみならず全国の河川を対象として、行政だけでなく流域の住民の皆さんや企業などの関係者が協働して「総合的かつ多層的な対策」すなわち「流域治水」を実施していく必要があるのです。流域治水の取り組みによって「河川氾濫を防ぐ」「洪水被害を軽減する」「被害からの早期復旧」の3つの課題解決が進んでいきます。

流域治水には協働が不可欠

流域治水の取り組みは、SDGsの掲げる「産業と技術革新の基盤」の発展に寄与する上に、「普遍性」「包摂性」「参画型」「統合性」「透明性」というSDGsの主要原則にも合致します。中でも流域治水があるあらゆる関係者の協働で推進されることから、主要原則のうちの「参画型」の原則「全てのステークホルダーが役割を」に合致しています。

愛知県では流域治水の主にハード整備を担う立場として、遊水池・排水機場等の施設整備や河川改修等の事業に取り組み、SDGsの達成に貢献していきます。

「行政担当者のお話」と聞くと難しいという先入観を持ちがちです。しかし、早野さんの明解でわかりやすいお話ぶりは、「流域治水」を進めるうえで欠かせない住民や企業等との協働に大いに役立つ強みだと感じました。今後のさらなるご活躍に期待したいと思います。



なごや環境大学のSDGsに関する取り組み

「なごや環境大学」実行委員会事務局 名古屋市環境企画課主査

鵜飼 真助



前半の「行政の実践報告」2事例目には名古屋市環境局の鵜飼真助さんが登場。鵜飼さんは「なごや環境大学」の事務局も兼務されていて、このユニークな「入学資格のない大学」の活動内容についてわかりやすく報告してくれました。

持ち寄りの場、なごや環境大学

なごや環境大学は2005年、愛・地球博開催の年の春に開学しました。名前に「大学」と付いていますが、「入学資格はエコゴコロだけ」の「まちじゅうがキャンパス」の開かれた環境学習の「場」です。さらにはこの仕組み、「公立」ではありません。行政だけでなく市民・市民団体、企業、教育機関が互いのスキルや問題意識などを持ち寄ってフラットな関係で共に学び合う場である点が大きな特徴です。

SDGs実践の取り組み

名古屋市が2019年7月に内閣府の「SDGs未来都市」に選定されたことを受けて、なごや環境大学では2つのプロジェクトを立ち上げて活動を開始しました。SDGsの理念である「誰一人取り残さず、全ての人や地域や国が経済・社会・環境を総合的に持続可能なものにする」をめざして、まずは「SDGsを知る」「SDGsを楽しむ」ためのイベントやプログラムを企画・実施しています。

ひろがる共育の輪

なごや環境大学は本年度より事業者向けオンラインセミナーを開催、企業のSDGsの取り組みも支援しています。また「森林プロジェクト」として山と海との間の流域の広域連携を通じて森林の役割について体感する取り組みを行っています。ほかにも若者に特化した活動や「なごや環境ハンドブック」の改訂なども進行中です。

なごや環境大学では、市民の皆さんや企業が開く講座を「共育講座」と呼びます。共に学び合い育ちあう、まさにSDGsの理念そのものだと思います。皆さんもどうぞ、なごや環境大学に遊びに来てください。

なごや環境大学が生まれて早くも16年が経ちました。この素晴らしい協働の仕組みが当地に生まれて成長してきたことを誇りに思います。これからも誰もが自由に参加して行動に結びつけていけるこの仕組みが、ますます発展していくことに期待します。



災害時に、誰一人取り残さない社会を目指して ～Evacuationに主眼を置いた防災に関する取り組みの紹介～

名古屋市立工芸高等学校 都市システム科

岩切 颯汰 渡邊 湧翔



休憩をはさんで後半1事例目の発表は現役高校生による実践報告です。元気よくステージに上がった岩切颯汰君・渡邊湧翔君の二人は、落ち着いた口調で発表タイトルの紹介から語り始めました。

<Evacuation>を主眼に

今回の発表タイトルにある<Evacuation>は「避難する」という意味です。今、全国各地でさまざまな自然災害が多発しています。いつ自分たちや自分たちの地域が災害に巻き込まれるかわからない状況の中でいかに安全に避難するか、私たちはその課題にチャレンジしました。

取り組みのきっかけと試行錯誤

この取り組みに着手したきっかけは、2018年9月に発生した「北海道胆振東部地震」及び「台風24号」によって発生した広域停電「ブラックアウト」の報道に接したことです。街路灯も消えて真っ暗闇の中をどのようにして避難所までたどり着けばいいのか？いざという時に「安心の灯」を確実に灯すことができる「誘導施設を開発しよう」と目標を定めて、そのための最適な材料として「蓄光材」を使用することとしました。

工芸高校生の強みを活かして

さまざまな調査や実験を経て試作品の制作、そして学内に設置するまでを私たち高校生が取り組みました。また地域に長く根差した伝統ある学校として地元の皆さんや子ども達との交流も活発で、おかげで有用な意見や提案をいただいたり、一緒に制作を楽しんだりと充実した体験ができました。

蓄光材を利用した誘導施設のほかにもう一つ、「浸水害疑似体験装置」も開発・試作しました。これは浸水時に歩行がいかに困難かを疑似体験できる移動可能な装置で、様々な試行錯誤を重ねて完成度の高い装置になったと思っています。

これからも工芸高校の豊富な人脈や若い私たちの柔軟な思考力などを活かして、「持続可能な街・名古屋」の実現に向けて寄与できるよう努めていきます。

未来の街づくりの中心を担っていくことを強く自覚した若い人たちによる頼もしい発表に、会場から大きな拍手が送られました。



観光農園事業の活動について

太啓建設株式会社 総務部アグリ事業課

菱田 直輝



後半2事例目は一般社団法人愛知県建設業協会の会員企業である豊田市に本社を構える太啓建設株式会社の「観光農園事業の活動について」の報告でした。

登壇したのは総務部アグリ事業部の菱田直輝さん。同社の農業分野参入が入社のきっかけだったという若さと熱意に溢れた青年です。菱田さんのお話は整然と立ち並び観光農園の全景写真の紹介から始まりました。

「地域の守り手」としてのスキルとノウハウを新分野で発揮

当社は従来から地域に根差した建設業者として街づくりの本業以外にも、災害復旧活動や維持管理など「地域の守り手」としての役割を果たしてきました。そうした取り組みで培った技術力やノウハウを活かして、さらに地域社会の多様なニーズに応えるべく農業分野に参入しました。

「スマート農業」の可能性を追求

2021年1月に豊田市御船町にオープンした「ストロベリーパークみふね」では、新しいスタイルの観光農園として「摘み取り」と「食べる場」とを分離して、安心・安全でしかも快適にいちご狩りを楽しんでいただけるスタイリッシュな空間を演出して、好評を博しています。

この農園の「スマートさ」は、おもてなしの部分だけではなく、最新のICT(情報通信技術)などを駆使した文字通り「スマート農業」に積極的に取り組んでいる点にもあります。

SDGsへの取り組み

当社では単に観光農園の経営に携わるだけでなく、SDGsがめざす「持続可能な地域社会」の実現に向けて、収穫した一部の規格外の果実を使った加工品の製造や他企業とのコラボ商品の開発などにも取り組んでいます。

また教育機関の体験・研修を受け入れて、食育や栽培技術向上の場としての役割も果たしています。こうした多面的な取り組みを通して、食品ロスの削減・地域経済の活性化、次世代の農業への興味・関心の醸成など、さまざまな役割を担っています。

従来から建設業と農業の親和性については指摘されてきましたが、菱田さん達の取り組みはより積極的に建設業者としての自社の「強み」をアグリ事業の強力な推進力としているところが画期的だと思います。

時あたかも愛知県は22年秋に愛・地球博記念公園内に「ジブリパーク」をオープンさせます。菱田さんは近い将来に自社の観光農園とジブリパークを結ぶ新たなビジネス展開の夢も語ってくれました。大いに期待したいと思います。



いのちはつながっている 生物多様性

富士文化幼稚園

今年のこの催しも、フィナーレを飾るのは名古屋市港区「富士文化幼稚園」の元気な年長組の子どもたちです。進行役の渡辺美香さんの呼びかけに合わせて場内に「さんぽ」(となりのトトロ)の曲が流れ、子どもたちの入場です。

今年はコロナ感染対策のために保護者の皆さんの参加も数少ない中でしたが、子どもたちは例年同様に元気いっぱい「生き物観察」の結果報告をしてくれました。観察の内容も素晴らしいですが、これもまた例年同様に子どもたちが描いた大きなサイズの絵も素晴らしい出来です。

発表が終わると同時に、全員で声を揃えて「手のひらを太陽に」の大合唱。最後に両手を大きく広げるポーズが決まって、会場は笑顔と拍手に包まれました。



「ラブなご」コーナー

催し前後半の休憩明けは、毎回恒例の「ラブなご」特別版です。これは主催者の一員である一般社団法人愛知県建設業協会（愛建協）が提供する、ラジオ番組を紹介するコーナーです。

毎週土曜日朝7時から9時まで、CBCラジオの生番組「石塚元章 ニュースマン」内の午前8時45分頃から始まるコーナー番組「ラブなご」は、「WE LOVE NAGOYA」からきたネーミングの短い番組ですが、メインキャスターの石塚元章さんとアナウンサーの渡辺美香さんのお二人を相手に、愛建協側から出演する担当者が街づくりや建設業の旬の話題を楽しく発信しています。



コメンテーターから一言

「ラブなご」がご縁で毎回の司会を務めていただく渡辺美香さん、今回はお仕事の都合で後半からの登場でした。代わって石塚元章さんが前半の進行役を務めてくださいました。お二人には当日のプログラムの結びとして、登壇してくださった皆さんの発表に対する一言コメントをいただきました。

石塚 美香さんは今回、後半からの参加でしたから私が前半の皆さんのお話の紹介を兼ねて一言ずつコメントを差し上げたいと思います。

最初に今回の基調講演を引き受けてくださった内田俊宏先生は、豊富な図表類も使ってわかりやすくSDGsの解説と私たち一人一人の取り組みの意義を話してくださいました。私からの「SDGsの取り組みが企業に与える影響は？」という質問には「大手企業がSDGs貢献によって社会的信頼を得る動きは、今後、中小企業にも波及していく」とのお答えでした。

続いてお二人から行政の立場で取り組むSDGs実践の報告がありました。はじめに愛知県建設局河川課の早野将康さんから「愛知県の流域治水対策」についてSDGsとの関連に焦点を当てて発表していただきました。早野さんのお話はSDGsの17の達成ゴールのうちの「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」をしっかり意識されている点が素晴らしいと思いました。「取り組むうえでのご苦労は？」と尋ねたら「予算の確保と地域の皆さんの理解」と、これもまた明快なお答えでした。

次に名古屋市環境局の鵜飼真助さんから「なごや環境大学」の仕組みと活動の紹介がありました。「大学」と名前についても、実際には「街じゅうがキャンパス」とか「入学資格はエコゴコロだけ」とか「共育講座」など、ネーミングもユニークで親しみやすく、市民に開かれた新しい環境学習の仕組みであることが分かる発表でした。鵜飼さんには私から「まさにSDGsの取り組みそのものですね。こんな素晴らしい仕組みが2005年から始まっていることに名古屋人の一人として誇りに思います」とお伝えしました。

美香さん、後半の発表はいかがでしたか？



渡辺 私からは建設業界と高校生の皆さんの発表について感想を交えて一言ずつお話しします。

後半最初は、名古屋市立工芸高等学校の岩切颯太さん渡邊湧翔さんのフレッシュなお二人が、過去に登壇された先輩たちに負けない内容を発表されました。中でも災害時の「ブラックアウト」に着目して、暗闇でも安全に避難誘導できる「蓄光材料をつかった誘導灯」の試作開発には感心しました。高校生らしい発想と自分たちで試作して効果を確かめる取り組みに頼もしさも感じました。

愛建協の会員企業から、今年は豊田市の太啓建設株式会社の菱田直輝さんが、自社で展開する「アグリ事業」の取り組みを発表されました。建設会社さんなのにイチゴやメロンを栽培して観光農園をオープンされただけでも驚きましたが、最新の管理技術を導入して美味しい果物栽培に取り組む姿勢や、摘み取った果実の一部を加工品にして製造・販売することで食品ロスの削減にも努めるなど、信頼できる地元建設会社による農業分野参入のメリットも実感できました。

石塚 最後に美香さん、毎年恒例の富士文化幼稚園の皆さんの発表はどうでしたか？

渡辺 「素晴らしい！」の一言です(拍手)

石塚 毎回感心するのですが、幼稚園園児が園にやってくる生き物をしっかり観察して、それを見事な絵にしたり文章にしたりと本当に感動しますね。先生方の熱心な指導に加えて、長年にわたって子どもたちに「エコタン」の愛称で慕われている高山博好先生のご指導のたまものですね。

渡辺 今年も皆さん、素晴らしい発表をしていただきました。会場の皆さんには最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。また来年、この会場でお会いできることを楽しみにして本日の「SDGs実践報告会」を閉じたいと思います。



メディア掲載



持続可能なまちづくりに取り組み発表
愛知建設協会のSDGs報告会

愛知県建設業協会（藤本和久会長）は1日、名古屋市中区公会館で第16回持続可能な明日をめざすシンポジウム「SDGs（持続可能な開発目標）実践報告会」を開いた。写真。名古屋市の環境局と環境企画部長のあいさつに続き、内田俊宏中京大経済学部客員教授がSDGsの必要性について基調講演した。この後、愛知県が流域治水、名古屋市が環境活動、名古屋工業高校が防災、太啓建設が観光農業をテーマに、それぞれ活動内容を紹介した。

建設通信新聞 20211203



愛知県建設業協会（藤本和久会長）は1日、16日名古屋市中区公会館で第16回持続可能な明日をめざすシンポジウム「SDGs（持続可能な開発目標）実践報告会」を開いた。写真。名古屋市の環境局と環境企画部長のあいさつに続き、内田俊宏中京大経済学部客員教授がSDGsの必要性について基調講演した。この後、愛知県が流域治水、名古屋市が環境活動、名古屋工業高校が防災、太啓建設が観光農業をテーマに、それぞれ活動内容を紹介した。

環境大学実行委員会事務局長でもある、名古屋市の環境局の市橋和宜環境企画部長「写真」が「一人一人が一歩踏み出すことが大切という点で、この会の理念はSDGsに合致している」とあいさつした。

愛建協 持続可能な明日をめざすシンポジウムを開く

続いて、中京大学客員に関する取り組み「名古屋市の環境局と環境企画部長のあいさつに続き、内田俊宏中京大経済学部客員教授がSDGsの必要性について基調講演した。この後、愛知県が流域治水、名古屋市が環境活動、名古屋工業高校が防災、太啓建設が観光農業をテーマに、それぞれ活動内容を紹介した。」

建通新聞 20211202



SDGsの活動報告
名古屋市の環境局と環境企画部長のあいさつに続き、内田俊宏中京大経済学部客員教授がSDGsの必要性について基調講演を行った。活動報告では愛知県の担当者が流域治水対策でのSDGsの取り組み、名古屋工業高校の生徒は、災害時に、誰一人取り残さない社会を目指して「Evacuation」に主眼を置いた防災に関する取り組み「」を紹介した。また、企業の立場から太啓建設総務部「アグリ事業課」の菱田直輝氏が「観光農園事業の活動」について発表した。同シンポジウムは中部地方整備局などが後援、愛知県建設業協会が企画責任団体として参加した。

建設工業新聞 20211203

みんなですべてよく安心を。

労災上乗せ補償は

建設共済 保険

契約者に役立つ制度充実

掛金が魅力
手厚い補償
(5,000万円まで)

労働者と企業のリスクをカバー



「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学事業

被災者(死亡および障害・傷病3級以上)の子供に対して、要保育期間および小学校から大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

労働安全衛生推進事業

- ① 安全衛生用品の頒布
- ② 女性専用トイレ・更衣室導入費用の助成
- ③ 安全衛生推進者表彰 等

公益財団法人 建設業福祉共済団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー11階
Tel.03-3591-8451 Fax.03-3591-8474

■ 取扱機関: (一社) 愛知県建設業協会

〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21
Tel. 052-242-4191 Fax. 052-242-4194



契約者と業界の発展のために <http://www.kyousaidan.or.jp/>

建設共済保険

検索

暮らし支えるまちづくり
愛知県建設業協会

お問い合わせ先

一般社団法人 愛知県建設業協会 (担当: 土田) 【TEL】 052-242-4191 【FAX】 052-242-4194